

日本学術会議幹事会宛の質問状等起案者による
福島原発事故の健康影響に関連した著作・論文など（和文のみ）

崎山比早子／元東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）委員（医師、細胞生物学）

- ・『レントゲン CT 検査 医療被ばくのリスク』共著、ちくま文庫（2014）
- ・『国会事故調報告書』東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（2012）
- ・『母と子のための被ばく知識—原発事故から食品汚染まで』共著、新水社（2011）

以下、岩波書店「科学」掲載論文

- ・「『3・11 甲状腺がん子ども基金』から見えてきたもの」2017年7月号
- ・「『第4回東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う住民の健康管理のあり方に関する専門家会議』におけるヒアリングを受けて」2014年5月号
- ・「放射線教育の問題点—なぜ低線量放射線リスクは“わかっていない”とされるのか」2012年10月号
- ・「チェルノブイリ大惨事による健康影響の実相：二つの報告書から—無視され続けてきたがん以外の健康被害」2011年11月号
- ・「放射性セシウム汚染と子どもの被ばく」2011年7月号
- ・「原発事故と低線量放射線被ばくによる晩発障害」2011年6月号

島菌 進／上智大学教授（近代日本宗教史、死生学）

- ・『科学不信の時代を問う—福島原発災害後の科学と社会』（共編）合同出版（2016）
（日本学術会議第一部（人文社会系）「福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会」での論議の様相）
- ・『つくられた放射線「安全」論—科学が道をふみはずす時』河出書房新社（2013）
- ・「被災者の被るストレスと「放射線健康不安」」『環境と公害』第47巻第1号、岩波書店、2017年7月
- ・「原発事故の精神的影響と放射線の健康影響—「過剰な放射線健康不安」を強調する見方の偏り」『学術の動向』第22巻第4号、2017年4月
- ・「3.11後の放射線被曝と「精神的影響」の複雑性」『学術の動向』第19巻第11号（通巻224号）、2014年10月
- ・「科学者と政治のよくない関係」岩波書店「科学」2014年2月号

瀬川嘉之／市民科学研究室・低線量被曝研究会、高木学校

- ・『レントゲン CT 検査 医療被ばくのリスク』共著、ちくま文庫（2014）
- ・『福島原発事故はなぜ起きたか』共著、藤原書店（2011）
- ・「東電福島第一原子力発電所事故に関する IAEA 事務局長報告に対する質問と回答ならびに各回答に対するコメント」（市民科学研究室・低線量被曝研究会）2016年
http://www.shiminkagaku.org/301010_20160807/

以下、高木学校市民講座報告集シリーズ

- ・第21回「東電原発事故の放射能と健康被害—わかっていることもわからないことに」2017年10月

- ・第 20 回「原発事故 いのちと暮らしを守っていくために」2016 年 10 月
- ・第 19 回「市民科学者をめざして—原発事故後 5 年・低線量放射線による被害を減らすために」2015 年 10 月
- ・第 18 回「原発事故—放射線が免疫系におよぼす影響」2015 年 2 月
- ・第 17 回「原発事故—放射線被ばくによる老化の促進」2014 年 2 月
- ・第 16 回「原発事故から未来の命を守れるか Part2」2013 年 2 月
- ・第 15 回「原発事故から未来の命を守れるか—放射能汚染・ひと・たべもの・環境・ごみ」2012 年 2 月

濱岡 豊／慶応大学 教授（マーケティング・リサーチ）

以下、岩波書店「科学」掲載論文

- ・「甲状腺がん過剰診断論の限界 II」2018 年 3 月号
- ・「甲状腺がん過剰診断論の限界」2017 年 7 月号
- ・「福島県における甲状腺検査の諸問題」2016 年 11 月号
- ・「原子力施設従業員長期被曝データ分析の動向」2016 年 3 月号
- ・「広島・長崎被曝者データの再分析」2015 年 9 月号
- ・「放射線被曝と甲状腺結節—関連研究のサーベイと福島甲状腺検査の分析」2015 年 6 月号

満田夏花／原子力市民委員会 座長代理

以下、原子力市民委員会報告書

- ・『原発ゼロ社会への道 2017—脱原子力政策の実現のために』2017 年 12 月
- ・特別レポート 3 『「人間の復興」に必要な医療と健康支援とは』2016 年 11 月
- ・『原発ゼロ社会への道—市民がつくる脱原子力政策大綱』2014 年 4 月

吉田由布子／「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク 事務局長

- ・『3・11 後の子どもと健康』共著、岩波ブックレット（2017）
- ・『放射能汚染が「未来世代」に及ぼすもの—「科学」を問い、脱原発の思想を紡ぐ』共著、新評論（2012）
- ・「チェルノブイリ事故後の甲状腺がんと UNSCEAR」岩波書店「科学」2018 年 9 月
- ・「原発事故と甲状腺がんをめぐる 30 年」岩波書店「科学」2016 年 8 月号
- ・「CHERNOBYL(チェルノブイリ)と FUKUSHIMA(フクシマ)」共著、現代化学、2011 年 7 月号
- ・「放射能汚染が未来世代に及ぼす影響」共著、現代化学、2011 年 5 月号

以上